

【書き下し】

(一丁目)

- 今川になぞらへて自を
いましむる制詞の条々
- 一常のこゝろざし奸しく
- 女の道明らかならざる事
- 一若き女無益の宮寺へ

(二丁目)

- 参りたのしむ事
- 一小さき過とて不改敗に
- いたりて人を恨むる事
- 一大事をも弁へなくうち
とけ人に語る事
- 一父母の深き恩を忘れ
- 孝の道疎になる事
- 一夫を軽しめ我を立て
- 天道を恐れざる事
- 一道に背ても栄ゆる者を
(うらやみ願ふ事)

【※脱落の丁があるため一部補足】

【中略 (五箇条分)】

(三丁目)

- (一人の中言を企ひとの)
愁を以て身を樂む事
- 一衣類道具おのれ美麗
を尽し召仕ひ見苦き事
- 一貴もいやしきも法有事
を弁へす氣随を好む事
- 一人の非をあげ我に智
有と思ふ事
- 一出家沙門に對面すと
- いふ共側近く馴る事
- 一我分際をしらす或は

おごり或ハ不足の事

一下人の善悪を辨へず召

仕やう正しからざる事

一舅姑に僂末にして人の

譏を得る事

一継子に疎にして他人

の嘲を恥さる事

一男たるにハ縦間近き親

類たりともしたしミを過す事

一道を守る人を嫌ひ我に

(五丁目)

- 諂ふ友を愛する事
- 一人来る時我不機嫌に
任せ怒を移し無礼の事
- 右此條々常に心にか
けるべき事珍しからず
- といへとも猶以て慎むべ
き事也先家を守るへき
- にハ志し直にして毎
事我を立ず夫の心に
随ふべし夫天は陽に

(六丁目)

- して強男の道なり地
は陰にして和に女の道也
- 陰ハ陽にしたがふ事天
地自然の道理なるゆる夫
婦の道を天地にたとへ
たれハ夫を天の如く敬ひ
尊ふは是則天地の道也
- されバ幼より心緒やさしく
直成友に交り假初にも猥
かハしく賤しき友に近寄

【読み下し】

(二丁目)

- 今川になぞらえて自らを
- いましむる制詞の条々
- 一常のこころざし奸しく
- 女の道明らかならざる事
- 一若き女無益の宮寺へ

(三丁目)

- 参りたのしむ事
- 一小さき過ちとて改めず敗れに
- いたりて人を恨むる事
- 一大事をも弁えなくうち
- とけ人に語る事
- 一父母の深き恩を忘れ
- 孝の道疎かになる事
- 一夫を軽しめ我を立てて
- 天道を恐れざる事
- 一道に背ても栄ゆる者を
- (うらやみ願う事)

【※脱落の丁があるため一部補足】

【中略(五箇条分)】

(三丁目)

- (一人の中言を企てひとの)
- 愁を以て身を楽む事
- 一衣類道具おのれ美麗
- を尽くし、召仕ひ見苦しき事
- 一貴もいやしきも法有る事
- を弁えず、気随を好む事
- 一人の非をあげ、我に智
- 有りと思ふ事
- 一出家沙門に対面すと
- いう共、側近く馴るる事
- 一我が分際をしらず、或は

(四丁目)

- おごり或は不足の事
- 一下人の善悪を辨(弁)えず召
- 仕よう、正しからざる事

一舅姑に僇末にして、人の

譏りを得る事

一継子に疎にして、他人

の嘲りを恥ざる事

一男たるには、縦え間近き親

類たりとも、したしみを過ごす事

一道を守る人を嫌い、我に

(五丁目)

- 諂う友を愛する事
- 一人来たる時、我が不機嫌に
- 任せ怒りを移し、無礼の事
- 右此の條々常に心にか
- らるべき事、珍しからず
- といえども、猶以て慎しむべ
- き事也、先ず家を守るべき
- には、志し直にして、毎
- 事、我を立てず、夫の心に
- 随うべし、それ天は陽に

(六丁目)

- して、強く男の道なり、地
- は陰にして和に女の道也
- 陰は陽にしたがう事、天
- 地自然の道理なるゆえ、夫
- 婦の道を天地にたとえ
- たれば、夫を天の如く敬い
- 尊ぶは、これ則ち天地の道也
- されば、幼より心緒やさしく
- 直なる友に交わり、假初にも猥
- かわしく、賤しき友に近寄